みんなの広場

Tokorozawa ものしりウォーキング ㉗ 南永井 オリンピック道路

柳瀬公民館の前を通る道は、通称“オリンピック道路”と呼ばれており、旧県道浦和所沢線から北へ延長２キロメートルほどの区間です。昭和39年に開催されたオリンピック東京大会で、所沢が会場となったクレー射撃場へ向かうために作られました。

「五輪の和」の記念碑

クレー射撃場は現在の県立所沢東高校付近にありましたが、今は跡形もなく、同校に入る交差点に当時の関係者らによって建てられた「五輪の和」の記念碑が残されているだけです。所沢がクレー射撃の会場となった理由は、すでにライフル射撃の会場に決まっていた自衛隊朝霞駐屯地の近くだったことと、市が誘致活動をしていたからでした。

広さは約13万8,000平方メートルで、射場のほか選手控室・修理室・会議室・食堂・スタンドなどが備わった施設でした。当時オリンピック所沢事務局長だった越阪部三郎さんの話によると「正式なクレー射撃場としては国内ではじめてだった」そうです。

クレー射撃競技は、クレーと呼ばれる素焼きのお皿を飛ばし、それを散弾銃で撃ち落として、命中の精度を競う競技です。もともと銃による狩猟が盛んな欧米で発達した競技であったため、国内での競技人口は多くはありませんでした。しかし、本大会の１か月前くらいに練習がはじまると、市役所から出された臨時バスで見学に行く人も多かったと言います。

当時は、現在の国道463号線（通称浦所バイパス）ができていませんでしたので、旧県道浦和所沢線を通り、新しくできたオリンピック道路から会場に入りました。

本大会では日本を含めて28か国が参加し、金メダルはイタリアのＦ.マタレリー選手が獲得しました。クレー射撃場は、昭和42年にアジア大会や埼玉国体で会場となった後は使用される機会も少なく、同47年に閉鎖されました。オリンピック大会後、柳瀬地区においては、ママさんバレーボールが盛んになりました。それは当地域がオリンピックの競技会場となったことがあったからいえるでしょう。

オリンピック道路

▲体は小さくても気合十分！小学生力士が力を競い合った「わんぱく相撲大会所沢場所」。
６月１日㈯／ＪＡいるま野所沢共販センター

▲寂しい時には心の支えになり、家族同様に過ごしてきたお人形。心をこめて供養した「人形供養祭」。
６月２日㈰／所沢神明社

▲余り布等で、すてきなソーイングケースを作りました。時のたつのも忘れてしまう「リフォーム講座」。
６月22日㈯／市役所８階大会議室

街かどズームイン zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「海」▶海をみているとなぜか心が穏やかになります▶しかし天候の変化でその表情は一転し、自然の厳しさを見せつけます▶海を渡る航海は、人生にも例えられます▶皆さんにとって海はどのような存在ですか▶締め切りは７月15日㈪必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１－１－１所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲ごみを拾いながら市内の公園や史跡などを巡り、ゴールを目指した「ふれあいウォークラリー」。
５月26日㈰／所沢航空記念公園周辺

誰でもエッセイ

テーマ“雨”

明日天気になーれ

東所沢・勅使河原　亜矢

幼稚園が休みの日に「雨」が降ると大変である。どこの家庭でも同じだろうが、子どもが外で遊べないほど退屈なことはない。

我が家は「一人っ子」なので娘の相手は当然私がしなくてはならない。一人遊びでもしてもらいたいものだが、何かにつけ「ママー」と呼ばれ一緒になって絵を描いたり、本を読んだりしている。

そんな中でも雨ふりならではの「てるてる坊主」を作るのはとても楽しい。ティッシュに目や鼻を書き、まるめて窓に飾るのだが、泣き顔や笑い顔を書き、娘に似せたりもする。

娘と一緒に「明日天気になーれ」の気持ちになれる。

雨のスパイス

和ヶ原・山ノ井　義治

「雨の日は憂うつだし、行事予定も流れるから嫌いだ」という人も多いが、時には雨も良いものだ。

雪国の「かまくら」に入っているような外界から隔離されたやすらぎの世界に浸れる。雨の日こそ落ち着けるし、感性も澄む。

ところで、小説や映画の死別・別離のシーンには、雨の情景が多い。雨が悲しみの感情を強めるからであろう。

雨でとても印象的だったのは、モーツァルトの悲運な生涯を描いた映画、「アマデウス」のラストシーンである。

地面をたたきつけるような雨の中で、あれほどの天才が、ぼろ切れのように、粗末に土中に葬られるのである。雨を効果的に利用して悲哀を増幅させていた。

雨にはさまざまな表情があり、まるで意思ある生きもののように私たちの心を打つ。雨は悲しみのとっておきのスパイスに違いない。

雨が運んだ贈り物

上安松・中林　正彦

あじさいの花が咲き出すと、毎年子どものころの夢のような生活を思いだす。

しとしとと降る雨の中、水道がわりに使っていたわき水をバケツで運ぶのが、私のお手伝いの一つであった。

下駄をつっかけ水場へ。この水場は瀬戸で出来た、ドラム缶ほどの大きさ。わき水は、こんこんとわき出て、あふれつづけていた。

ひしゃくで水をくみ、ついでに顔を洗う。すでに全身ずぶぬれ。

バケツがわき水でいっぱいになると、すぐ横にある大きな木イチゴの木の黄色く熟れて雨でびかびか光っている実を、口の中へ。

ついでに葉っぱにいるかたつむりの角を何回も、何回もひっこめて遊ぶ。

「まさひこ、何やっているの。水はいうくるの」母の声で、我にかえる。

子育ての思い出

若狭・大澤　美江

「暗くなるまで遊んでいると、もうお家へ入れないわよ。わかった？」「うん、でもいっぱい遊んでいると忘れちゃうんだもの」こんな対話を繰り返しながら、小学2年生の息子は育っていった。

ある日のこと、クラスの子の家で新装開店（食堂）があった。「あのねA君ちで、僕たちに、サービスしてくれるんだって…みんな行くって。僕も行きたい！」

そして当日、硬貨をしっかりポケットに入れ、嬉しそうに自転車で出かけた。

午後になって空模様がおかしくなってきた。そのうち夜のように真っ暗になり、激しい雷雨になった。私は雨戸を閉めに2階に駆け上がっていた。

玄関ではチャイムが何度も鳴っている。玄関を開けると、全身びしょぬれの息子がべそをかきながら立っていた。

「どうしたの、こんな雨の中を？」

雨宿りするのよこんな時は…」

「だって真っ暗になったんだもの。お家に入れてくれないと思ったんだよ」

泣きながら雷雨の中をスピードを出して帰ってきた息子。私も泣き笑いしたいようだった。

息子は今年から社会人になった。

雨の日のおやつ

上安松・若林　悦子

雨と言えば思い出すことがある。私の育った所は田舎で、自分の家で食べる野菜は、自分のところで作っていた。

父は、商売をしていて家を空けることができないので、母が畑を1人で任されていた。天気の良い日は忙しい毎日であるが、雨の日には、私たち子どもたちのために、お米の粉の団子、おやき、くるみのおはぎなどのおやつを、手作りでこしらえてくれた。

私は、サラリーマンに嫁ぎ、お天気には関係のない生活になったのに、子どもが小さいころは、雨が降るとそれを作り、ゆったりとした気分になっていた。遠い日の懐かしい思い出である。

雨の日のロマンス

並木・横須賀　みどり

ただバスが揺れた、その偶然で一つの出合いがありました。バス通学をしていた高校時代のことです。雨が降ったある日、傘がその人の制服にあたって、それから話をするようになりました。

2人で歩くときは、いつも相合い傘で、小さな町の中をかっ歩していました。

2人の関係がLIKEからLOVEに変わろうとしたとき、海を見ていた2人に突然のタ立。

雷の音とともに自分の心に決別を決めました。

雨の思い出

東狭山ヶ丘・加藤　富美子

雨で始まり、雨で終わりとなったちょっぴり切ない思い出です。

川が土砂色に変わるとき

東狭山ヶ丘・加藤　富美子

私の生まれ育った家の前には、山から町をとおり諏訪湖へと流れる川がありました。

普段は、川底をそよそよと水が流れるその川が、雨が降ると水かさが増し、土砂色に変わった水がゴーゴーと勢いよく流れ、まるで違った川になります。

私は、雨の日にそんな川を見るのが好きでした。ランドセルを背負ったまま傘をさしていつまでも川を眺めていました。

それは、眺めているうちに自分の体がどんどん川を昇って行くような錯覚に捕らわれてしまうからでした。

それは決して怖くはありませんでした。でも、今考えると雨傘が風にあおられてもし川に落ちていたら大変な事でしたね。

雨は大切なものなのだが

東狭山ヶ丘・伊藤　平八

雨が気になって、気になってどうしようもない時がありませんか。私たちは自分の都合の悪い雨を嫌います。

しかし、時をさかのぼれば、雨は天の恵み、慈雨だったのです。6月、7月の祭礼の由縁は、ほとんど農民の雨乞い祭りの名残なのです。今でも農家の方には、この時期の雨はありがたいものです。

私たちにとって水は大切なものなのですが、ハイキングの計画などをしたら、当日の天気が心配で、テレビの天気予報を気にします。

雨のときは恨み、晴れたらウキウキと遊びに出かけます。私たちは何で勝手なんでしょう。

次回のテーマは「海」です

はつらつところ野老っ子

浜西冨美子さん
（緑町在住）

おしゃれは、人を元気にする

ファッション業界は、一見、華やかそうに見えますが、この世界で成功するにはデザインや縫製の技術を磨き、チャンスをつかむための努力が必要です。

今回は、この業界のプロを育てあげるスペシャリスト、浜西冨美子さんを紹介します。

浜西さんが、ファッションのプロを目指していたころは、女性が仕事を通して自立することが難しい時代でした。「女性が、技能を身につけるための支援をしたい」という思いが、学校設立への強い原動力となり、昭和51年に浜西ファッションアカデミーを設立しました。現在は校長の要職にあります。

「設立に当たっては、フランス、ドイツなど5か国を研究のために訪れ、資料を集めたんです」と話すようすから、当時の情熱を強く感じさせます。

同校では、ドイツ特有の長期訓練制度を導入し、6年間のコースで技能習得への道を開くとともに、年齢を問わず自立したい方を受け入れています。「時間のたつのも忘れ、授業に打ち込む生徒の姿を見ていると、これまでの苦労を忘れてしまいます」と、微笑（ほほえ）みます。

この春には、職業教育の分野で貢献したことが認められ、叙勲（勲６等宝冠章）を受章しています。

最近では、体の不自由な方を対象にしたファッションショーも開催しています。「老人ホームのお年寄りに学校でつくった服を着て頂いたところ、とても喜んで、すてきな笑顔を見せてくれました。内面から元気になって行くのをみてこれだと思ったんです」と、開催のきっかけを聞かせてくれました。

「旬の市」でのファッションショー

体の不自由な方のための洋服は、ファッション性と機能性を兼ね備えたものがまだ少ないそうです。

ショーでは、車いすを利用する人のための礼服、お年寄りの体型に合わせた外出着などを出展しました。

“職業教育のカリキュラム充実”を目標に、忙しい毎日を過ごす浜西さんですが、「時には、生徒を伴って音楽や絵画を楽しみ芸術にふれることで感性を養います」と、目を輝かせながら話してくれました。

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります ▽電子編み機▽ゴム編み機▽毛糸編み機▽全自動洗濯機４・２㎏▽藤のつい立（４連）▽スチール製折のただみテーブル▽座卓▽水槽セット一式（熱帯魚用）▽高枝切のバサミ▽噴霧器（ステンレス製９ℓ）▽スノータイヤ（ホイール付き）・４本▽大人用マウンテンバイク

●求めます ▽ダイニングテーブルセット▽子ども乗せ専用自転車▽マリンバ（楽器）▽卓上ミシン▽ロックミシン３本糸用▽英語教材（幼児～小学生用）▽姿見▽琴

受付方法 ただし、利用者は所沢市民に限ります。電話による先着順で紹介します。

休館日 月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館（☎944-0003）

ご覧ください

■テレビ埼玉 所沢リポート
7月19日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映

■シティケーブルネット 広報ところざわ テレビ情報館
7月18日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組